

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2021年1月-3月 通巻第166号



園長のおすすめ 2020年1月27日号より

カランコエ 'ちゅららイエロー' *Kalanchoe 'Churara-yellow'*

この黄色い花を咲かせているカランコエは、鉢花でよく目にするカランコエとは違って花茎が長く、上向きに鮮やかな色の花を多数つけるという特長があります。他にもピンク、オレンジや赤色の品種もあって、切り花用に沖縄県で生産が始まった新しい園芸植物です。これらの品種は千葉大学と沖縄の海洋博記念公園が協力して、絶滅危惧種のリウキュウベンケイをもとに交配・育種して作り出しました。本園技師も育種に携わっています。「冬の鉢花展」では、ちゅららシリーズの他に、マダガスカル原産でイチゴのような長い匍匐枝をつけるカランコエ・シンセバラなど珍しい野生種も多数展示しています。

(園内位置：展示温室)

[写真・文 世羅 徹哉]

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>

あの花この花

大温室で見られる「ボール状」の花

Ball-shaped flowers in the main conservatory.

1月から3月の間に見られる面白い花に何かあるかなあ？と考え、とりあえず「ピンクボール」と呼ばれているドンベヤが思いつきました。学名はドンベヤ・ワリチイ (*Donbeya wallichii*) で、ピンクボール (Pink Ball) は英名です。12月から1月頃を中心に、大温室内で花を見ることができます。開帳幅3cmくらいの花が多数集まって球状の花序を作ります。花の数にもよりますが、花序の直径は15cmくらいになります。アオイ科の小高木でアフリカ東部～マダガスカル原産。樹高5mを超える性質ですが、あまり高くないように仕立てているので、視線くらいの高さで花を觀賞できます。本種はピンク色ですが、ドンベヤ属の他の種には白や薄ピンク色の花を咲かせるものもあります。



次にご紹介するのは「オオハウカンボク」です。筆者はしばらくの間ハウオンカンボクと間違えていて、資料を探しても見つからなかったという笑えない話がありますが、漢字で書くと「大宝冠木」となります。学名は *Brownea grandiceps* でベネズエラ原産。マメ科の小高木で、文献によると8mくらいの樹高になるそうですが、本園大温室の株は傘状の樹形となり、3mくらいの樹高になっています。前出のピンクボールと同様に開帳幅3cmくらいの花が多数集まり、直径20cmくらいの球状の花序を作ります。花の色は朱赤色。大温室内で、初冬から春の間、開花の波がありますが花を咲かせます。



「オオベニゴウカン (大紅合歓)」もボール状の花を咲かせます。学名は *Calliandra haematocephala* で南米原産。マメ科の低木で、樹高は2～3m程度。花の形はネムノキに似ており、多数の花が集まって直径10cm程度の球状の花序を作ります。基本種は赤色をしていますが、白花を咲かせる品種もあります。よく目立っている部分は雄ずい (おしべ) で、花弁はほとんど目立ちません。大温室内で晩秋から春にかけて開花しています。



最後に「カエンボク (火焰木)」をご紹介します。学名は *Spathodea campanulata* で、西アフリカ原産。世界の三大花木の一つに数えられ、熱帯地域でよく植栽されています。ノウゼンカズラ科の高木で、大温室では5mを超える樹高になっています。完全なボール状ではありませんが、枝先に半球状 (傘型) の花序を作ります。花色は橙～朱色ですが、当園の株は黄色がかった橙色をしています。大温室内のスロープから、やや斜め上の位置に花が咲きますので、望遠レンズなどがあると観察しやすいでしょう。開花生理については正確な情報を見つけることができませんでしたが、本園では不定期に開花しています。写真は2018年12月27日に撮影したものです。



[写真・文：濱谷修一]

2021年1月～3月 展示会・イベント案内

2/11～14

バレンタイン フェスティバル

カカオニブ講演会、専用石うすによるチョコづくり実演（いずれも事前申込制）、300本のバラのタペストリーを背景に撮影できる記念撮影コーナーなど各種催しを行います。

2/20～28

春の特別ラン展

「春は必ず来る！今、あなたに贈る多彩なラン」をテーマに、大温室を洋ランで装飾します。希少なシンビジウムの古品種の展示は必見です。

3/27
4/3, 10

さくらまつり (春の夜間開園)

開園時間を20時まで延長し、夜桜を楽しめます。3/27（土）～4/18（日）のまつり期間中には桜観賞会などのイベントも行います。

展示会のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示会・イベントを中止・延期する可能性があります。

新春小品盆栽展	共催：広島小品盆栽会	1/5～1/7	展示資料館
植物写真コンテスト作品展		1/9～1/24	展示資料館
冬の鉢花展		1/9～2/7	展示温室
カカオとチョコの秘密展		1/30～2/14	展示資料館
おもと（万年青）名品展	共催：日本おもと協会広島県支部	2/9～2/15	展示温室
蘭の絵画展（仮称）		2/20～2/28	展示資料館
春の特別ラン展	協力：広島洋蘭倶楽部他	2/20～2/28	大温室及び 展示温室
フラワーデザイン展	共催：日本フラワーデザイナー協会広島県支部	2/20～2/28	大温室ロビー
クリスマスローズ展	共催：広島クリスマスローズ同好会	2/20～2/28	屋外展示場
「草木染の世界」展	共催：広島草木染の会	3/6～4/1	展示資料館
ゼラニウム展		3/6～4/18	展示温室

おもと
夫婦獅子



おもと
巖島の舞



おもと
芸州



Event Information 2021 1-3

植物園で開催されるイベントを紹介します

1月

小品盆栽実演会 (先着100名)
1月6日(水) 午後1時半～2時半

2月

おもと(万年青)実演会 (先着10名)
2月13日(土) 午後1時半～2時半

季節の花物語 [ラン] (先着100名)
2月20日(土) 午後1時半～2時半

クリスマスローズ実演会 (先着30名)
2月20日(土)、21日(日)、23日(火・祝)
27日(土)、28日(日) 午前11時～12時

洋ラン実演会 (先着20名)
2月21日(日)、23日(火・祝)、27日(土)、28日(日) 午後1時半～2時半

フラワーデザイン実演会
2月23日(火・祝) 午前11時～随時

3月

「草木染の世界」展ギャラリートーク
3月7日(日) 午前11時～ (先着10名)

ジュニアプロジェクト (先着20名)
3月14日(日) 午前11時～正午、午後1時半～2時半



しいたけ栽培講習会・菌打ち体験会
3月20日(土・祝) 午前10時～午後3時
[ホダ木(50本)が無くなり次第終了]

洋ラン栽培講習会 (先着100名)
3月21日(日) 午後1時半～2時半

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、イベントを中止・変更する可能性があります。来園前に最新の状況を植物公園ホームページや電話でご確認ください。

- ＊毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています＊
- ＊毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時～は、園内で職員による植物うんちくガイドを実施しています＊

申込制のイベント ※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号(・希望日)を記入してお申込みください。植物公園ホームページからもお申込みいただけます。

催し名・日程	内容等	定員	締切	申込QR
カカオニブ講演会 2月11日(木・祝) 午後1時半～	「神の食べ物」チョコレートと原料のカカオの不思議な世界を紹介します。講師は広島大学名誉教授 佐藤清隆氏	50名 (抽選)	1月25日 【必着】	
カカオニブ磨砕実演会 2月13日(土)、14日(日) 午前11時～、午後1時半～	チョコレート専用石うすで、カカオニブを磨砕する実演をします。また試食もできます。	各回10組 (抽選)	1月25日 【必着】	

お知らせ

「職員による植物うんちくガイド」の名称変更について

日程(各日11時～)	テーマ	主に紹介する場所
1月12日 火	冬の大温室散策	大温室
1月23日 土	冬を華やかに楽しむ(冬の鉢花展)	展示温室
2月9日 火	バレンタイン&カカオのはなし	展示室・大温室
2月27日 土	春の特別ラン展	大温室
3月9日 火	ゼラニウム展	展示温室
3月27日 土	春の妖精に会いに行こう!!	うらら池、ロックガーデン

現在、当講座は新型コロナウイルス感染症対策として、原則現地ガイドは行わず、展示資料館2階講堂で座学形式にて実施しています。名称を実態に合わせるため、令和3年2月より、講座の名称を職員による植物うんちく語りに変更します。令和3年度も継続する予定ですので、ぜひご参加ください。

1月～3月に見ごろを迎える植物



ハナナ [ナノハナ]
(カスケード・花の進化園)



クリスマスローズ
(ベゴニア温室前)



リビングストーンデージー
(花の進化園)



オオバナソシンカ
(大温室)



ブラジルデイゴ
(大温室)



アロエ '青鰐'
(サボテン温室)



スイセン カンタブリクス
(ロックガーデン)



タンチョウソウ
(ロックガーデン)



セツブンソウ
(里山の野草園)



ロウバイ
(芝生広場奥)



スモモ 'ハリウッド'
(芝生広場奥)



カメリア・ユーシエネンシス
(ツバキ園)

大温室前のワシントンヤシの古葉取りや日本庭園の雪吊り設置も終わり、万全の冬支度で今年も新年を迎えることができそうです。新年は1月4日から開園します。寒い日は外に出るのが億劫になりますが、樹形や冬芽など落葉期ならではの観察もおすすめです。例えば、コブシの冬芽はふかふかな毛で覆われており、まるで外套を着ているようです。[写真・文：久保 晴盛]

キャンドルの原料となる植物（木蠟） Raw material for candles



ハゼノキ



ナンキンハゼ



イグサ

今でこそキャンドルは石油製品（パラフィン）ですが、近世以前は植物由来の木蠟が一般的に使われていました。木蠟はハゼの実が原材料で、芯はイグサの髄です。ナンキンハゼはハゼノキの代用品。広島藩が木蠟生産を奨励したため、市内の山中でもハゼノキをよく見かけます。

春の特別ラン展 Spring special orchid exhibition



カトレヤ・ルデマニアナ セルレア



シンビジウム・トラキアヌム



ドラクラ・アマリアエ



バンダ・ロスチャイルディアナ



会場の装飾（昨年度の様子）



会場の装飾（昨年度の様子）

春の特別ラン展は園最大の展示会です。大温室を豪華絢爛な洋ランで装飾し、一足早く花いっぱい春の訪れを感じることができます。今年のテーマは「春は必ず来る！今、あなたに贈る多彩なラン」です。愛好団体によるランの展示即売や育て方相談のブースもあります。フラワーアレンジメントや絵画などの関連展示もあり、園全体がラン一色に染まる1週間をお見逃しなく！



Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. クリスマスに買ったシクラメンを日の当たる窓辺で管理していたら、ぐったり萎れてしまいました。底面給水鉢に植えられたもので、水も溜まっており水切れとは思えません。朝には回復していましたが、花数も減って次第に弱っていくようです。どうしてなのでしょう？

A. 冬の鉢花として定番のシクラメン。日当たりよく管理すると次々花を咲かせ長期間楽しむことができます。その生育適温は15～20℃と涼しい環境を好みます。置き場の最高温度は何℃まで上がっているのでしょうか？もしかしたら、日当たりが良すぎて、温度が高くなっているのかもしれない。

また、以下に示したポイントを押さえておけば株が弱のを抑え、初夏まで楽しむことができます。

- ①最高温度15～20℃となるよう風通し良く涼しく管理
- ②黄変した葉や花がらを取り除き、葉柄や花柄が交差しないよう中心から延びる新葉を外側に引っ張り出し中心部に花を集める「葉組み」を適時行い、株の中心に光が入るよう管理
- ③1週間～10日に1回液体肥料を灌水を兼ねて施肥
- ④次第に暖くなる春の彼岸を過ぎた頃から直射日光に当てるのは午前中朝日が当たる程度とし、明るい日陰で管理

こうして長期間観賞した後は、シクラメンの夏越しになります。断水して完全に休眠させるより、葉をつけた状態で直射日光の当たらない北側の涼しい場所で管理します。こちらの方が翌秋の生育開始がスムーズでしょう。

[文 平井 健一郎]

Q 地植えで育てているフジバカマが水をあげているのに突然枯れてしまいました。どうして枯れてしまったのでしょうか？

A. フジバカマが水をあげているのに立ち枯れてしまう原因は、白絹病という病気だと考えられます。白絹病とは、植物の株元に病原菌の白い絹状の菌糸が伸びて茎や根を腐らせて枯らしてしまう病気です。

高温と多湿の条件で病原菌が活性化するので、梅雨明けから夏にかけて白絹病が多発します。

白絹病の発生が初期でしたら、モンカットフロアブル40などの農薬を用いることで、主に予防的な対策をすることができます。しかし、一度白絹病にかかってしまった株は、薬剤を用いても治ることはありません。枯れる初期の段階で茎がまだ元気でしたら、株の上部の茎を切り取りとって挿し木で助けることができます。

白絹病は菌核という菌の種のようなものを地表にばらまきますので、特に地植えの場合はそのままにしておくで継続して白絹病が発生してしまいます。そこで、白絹病にかかった株と周りの土は速やかに処分する必要があります。また、数年間土地を休ませて連作を避けるのも方法の1つです。鉢植えの場合では、水はけのよい用土で栽培すれば、白絹病になりにくいです。

[文 佐藤 祐輔]

Q. 食用菊という食べられるキクがあると聞きましたが、普通のキクとはどう違うのでしょうか。また、普通のキクも食べることができるのでしょうか。

A. 食用菊と呼ばれるキクは観賞用と比べて、苦みが少なく花弁が大きく品種改良されたキクの総称です。キクには殺菌作用があり、中国では古くから延命長寿の薬として用いられていました。日本でも旧暦9月9日の重陽の節句に菊花を浮かべた菊花酒を飲む習慣がありました。現在でも主に料理に彩りを添える目的でおひたしや和え物、酢の物などに利用されています。

食用菊の主な品種としては山形県や新潟県で栽培されている延命楽、青森県で栽培されている阿房宮といった品種が有名です。また、刺身に付いてくる小菊（つま菊）も食用菊なので、花弁をちぎって刺身や醤油に振りかけて食べることができます。

食用菊以外のキクも一応食べることはできますが、苦みが強いので食用には向いていません。また、観賞用として販売されているキクには農薬や延命剤が使われているので、食べることはできません。

[文 在岡 郁雄]

紅色のイトトンボ

植物公園の中には、林内の小川や開けた溜池、コンクリートに囲まれた水槽など、多様な水環境があり、鳥類や両生類、昆虫などの生き物も観察することができます。中でもトンボは、幼虫（ヤゴ）の期間を水中で過ごす水辺を代表する昆虫の一つで、園内を歩くと様々な種類のトンボに出会うことができます。



写真2. ベニイトトンボ

学名： *Ceriatagrion nipponicum* Asahina, 1967
環境省（NT） / 広島県（要注意）



キイトトンボ



クロスジギンヤンマ



オニヤンマ

写真1. 園内で観察できるトンボ類

季節はさかのぼり、夏。お客様や職員から「赤くて細いトンボがいた」というお話を伺ったので、注意して歩いてみると、確かにいました。正体は「ベニイトトンボ」。ベニイトトンボは、その名前が示すとおり、紅色をしたイトトンボです。園内で見られる他のイトトンボよりも少し大きく、色も目立つため簡単に見つけることができます。国内では、東北地方から九州地方にかけて分布しますが、生息地は局所的です。

これまでは、全国的な減少傾向にあったため、2007年の環境省版レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されていましたが、新産地の発見が相次いだこともあり、2012年の第4次レッドリスト以降は、ランクの低い準絶滅危惧（NT）とされています。広島県では要注意種に選定されており、これまで園内で見つかった記録はありませんでしたが、今年は複数の個体を確認することができました。生息域が拡大している原因としては、ホテイアオイなどの園芸用水草の移動といった人為的拡散の可能性も指摘されており、今後の動向が注目されているトンボの一つです。



[写真・文 山本 晃弘]

注：令和2年9月より、園内での昆虫採取は禁止としています。

写真3. ホテイアオイ



広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

